

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！  
地域医療を守る共同行動  
みやぎ連絡会

# News

2024.8.2.FRI No.200

祝

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局  
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）  
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

精神障害者のくらしと医療を考える仙南ネットワーク  
2.23ユーザーズアクション実行委員会  
仙台市議会議長・副議長と懇談  
議長“県と移転ありきの議論はしない”



7月31日（水）精神障害者のくらしと医療を考える仙南ネットワーク（以下、仙南ネット）と2.23ユーザーズアクション実行委員会（以下、ユーザーズアクション）では、仙台市議会 橋本啓一議長と鈴木広康副議長との懇談が行われ、村井知事が進める県立精神医療センター富谷市移転問題を巡り精神医療ユーザーの思いと仙台市の考えを共有する場になりました。当日は両団体から支援者を含め7名が参加し、報道には公開せず懇談が行われました。

仙南ネット代表からは県立精神医療センター富谷市移転に伴う問題点を具体的に指摘しながら、これまで長年培ってきたくにも包括を支える名取市内にある社会資源（共同作業所、グループホーム等々）が移転に伴い縮小される懸念や移転先の富谷市には精神に係わる社会資源がないことを強調し述べ、ユーザーズアクション共同代表からも「県は精神医療ユーザーが富谷市には通えない現実を直視していない」等々県の無理解な解釈について指摘しました。市議会議長からは、「今回、郡市長が明言したく県立精神医療センター富谷市移転反対」と私たちは同じ考え」と述べています。【次号に続く】

[https://www.tomiya-city.miyagi.jp/shisei/koho\\_movie/koho/2024/07/koho0608.html](https://www.tomiya-city.miyagi.jp/shisei/koho_movie/koho/2024/07/koho0608.html)



## 令和6年度 富谷市こころの健康づくりフォーラム

### ～精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム構築に向けて～



宮城県精神保健福祉センター  
所長による基調講演



本市では、精神障害の有無や程度に関わらず、誰もが精神的健康の保持・増進に取り組み、心理的にも身体的にも、社会的にもより良い状態を保持し、充実した暮らしを送れるように「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を進めています。

6月16日にその一環として、まずはこころの病気について市民の皆さんに知っていただけるよう、成田公民館で「こころの健康づくりフォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、有識者による基調講演や、精神障がい当事者も交えたパネルディスカッションを行いました。内容の一部を紹介します。

#### 第一部

基調講演 「知ることから始めよう！誰がかかりうるこころの病気」では、宮城県精神保健福祉センター所長の小原聡子医師から身近なこころの病気について、教えていただきました。

こころの病気は、国の五大疾病の一つに定められるほど身近な病気で、5人に1人が生涯に一度はかかるといわれています。

体の病気と違って、周囲からわかりにくいだけでなく、本人も自身の不調に気が付きにくいという面があることから、体の健康と同じように、自分の心に不調がないか時々チェックすること、「よく眠れない」「力がなくて、何をすることもおっくうに感じる」など何か不調があったら、病気になる前に気付く、そして医療や行政といった相談・サポートしていただける機関につながる

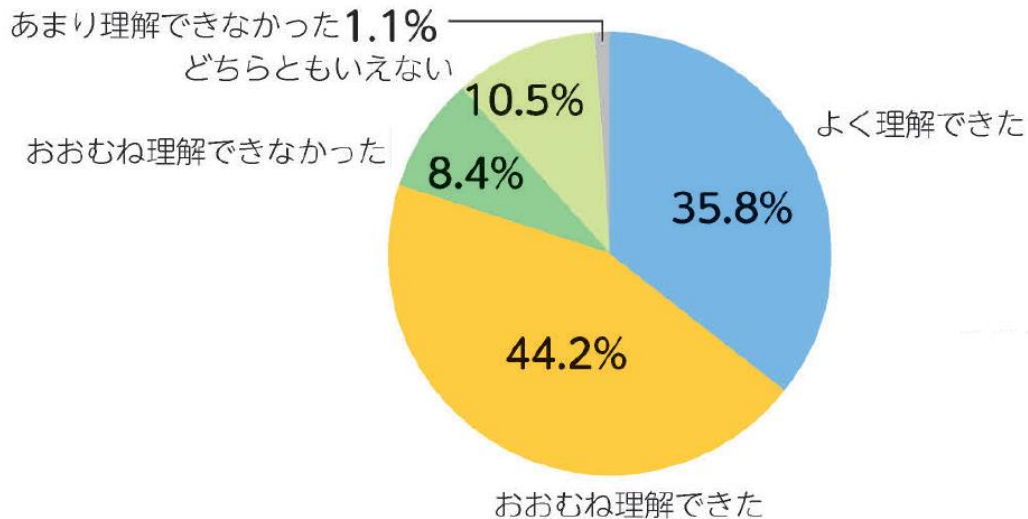


#### 第一部

「住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けるために」と題して、小原所長がコーディネーターとなり、パネルディスカッションを行いました。

富谷ファミリールームメンタルクリニック 佐藤院長や富谷市在住の当事者の方、その方を支援している富谷市社会福祉協議会次長の佐々氏、富谷市長がパネリストとして登壇し、「心の病があっても、相談したり、サポートがあれば、自分らしく地域で生活できる」という話をいただきました。

## 「精神的不調に陥っても、地域の中でその人らしく暮らし続けることができること」理解度



※8割の方が理解できたと回答

### 参加者の声（アンケートから）

- ・ 全く知らなかったことを大まかに知ることができた機会となりました。家族や知人にも内容を伝えたい。
- ・ 私も精神障害のある方と接することがあります。一人一人特性が違うため、「正しい知識を理解する」ことが大切だと思います。
- ・ コミュニティの重要性を痛感した。地域・ご近所の声掛け、協力が大切。
- ・ 精神科医が少ないことは課題だと感じました。
- ・ こころの病気は特別ではないと確認ができました。不調に気づいて立ち止まっている現状を、病気になる前に行動してみようと思いました。

## "精神医療センター現地建て替えを"患者ら移転反対訴え 「宙ぶらりんな状態で非常に迷惑」

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tbc/1330649?display=1>



2024年7月31日 tbc東北放送

宮城県と仙台市による協議が続く4病院再編構想について、精神疾患がある人たちなどで作る団体が、31日、市議会議員と懇談し県立精神医療センターの現地建て替えなどを訴えました。

31日、精神疾患がある人とその支援者などで作る2つの団体のメンバーは、仙台市役所で橋本啓一議長らと懇談しました。県が主導する4病院再編構

想は、仙台赤十字病院と県立がんセンターを統合して名取市に、東北労災病院と県立精神医療センターを併設して富谷市に移転し、名取市には医療センターの分院を置くものです。このうち労災病院と精神医療センターについては基本合意に向けた県と仙台市の協議が続いています。

懇談は非公開で行われ、団体によりまずと精神医療センターの移転によって通院が困難になり急変への対応も出来なくなる恐れがあるとして現在の場所か、その近くで建て替えを進めて欲しいなどといった意見が出されました。

### 2・23みやぎユーザーズアクション実行委員会 川村有紀共同代表：

「県から具体的に新たな提案がされるわけではなく、かなり宙ぶらりんな状態で非常に迷惑を被っている。ドキドキする日常が1日でも早く終わって、また平和な気持ちで過ごせたら」

### 仙台市議会 橋本啓一議長：

「これからも市民、利用者、患者の声を吸い上げ、その声を議会の場、県側に伝える」

団体は今後、仙台市や県と協議して、移転反対を訴え続けたいとしています。

## 県精神医療センター移転 「仙台市議会は 反対に理解を」

### 2市民団体が要請

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想のうち、県立精神医療センター（名取市）の富谷市移転を巡り、精神障害当事者らでつくる市民団体「みやぎユーザーズアクション」など2団体が

31日、仙台市議会に対し、移転反対と、現在地か近隣での建て替えを訴える活動への理解を要請した。

ユーザーズアクションの川村有紀共同代表、名取市の市民団体「精神障害者のくらしと医療を考える仙南ネットワーク」の小泉潤代表ら計8人が、橋本啓一議長らと約30分間、非公開で意見交換した。

郡和子市長は市議会6月定例会で移転に「現状では反対」と初めて明言した。終了後、川村代表は「大変心強い」と評価した上で「市議会も患者の生活に関心を持ち、反対を後押ししてほしい」と求めた。橋本議長は「市と共同歩調を取り、当事者の声を吸い上げ、県に届けたい」と述べた。